

人間を救うのは、人間だ。

新型コロナウイルスについて 気づき・考え・実行しよう!

新型コロナウイルスによって、

私たちの生活は大きく変わりました。

これから、このウイルスと共生していくためには、

一人ひとりが正しい情報を知り、それぞれができることを考え、

予防を行う等、実行に移すことが大切です。

今、私たちにできることは何か？

青少年赤十字メンバーが、

行動で示してくれました。



青少年赤十字メンバーが立ち上がる!!

静岡県立三島南高等学校では、ボランティア部員15人が青少年赤十字メンバーとして活動しています。同校では6月から部活動が再開され、多くの命を奪い、自分たちの生活や学業に大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症に対して、自分たちにできることを考え取り組みました。



静岡県立三島南高等学校 ボランティア部の取り組み

気づき つながっている3つの“感染症”とは？

まず初めにメンバーは、日本赤十字社が作成した新型コロナウイルスに関する一般向けガイドや新聞記事等で学習し、新型コロナウイルスによる差別や偏見があることに気づきました。



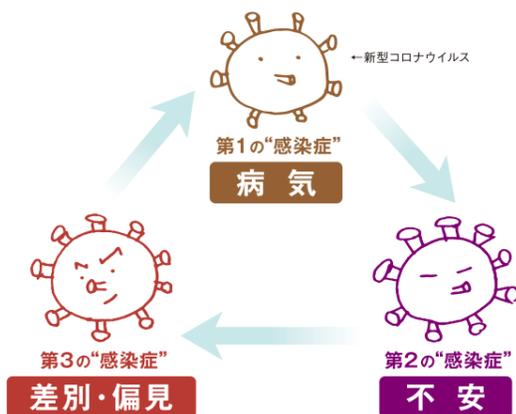
↑新型コロナウイルスの3つの顔について学ぶメンバー

新型コロナウイルスの

3つの顔を知ろう!

～負のスパイラルを断ち切るために～

新型コロナウイルスは、第1の感染症である「病気」のほかに、「不安」そして「差別・偏見」という第2・第3の“感染症”の顔をもっています。この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別・偏見を生む。その差別・偏見が更なる病気の拡散につながるのです。



※静岡県支部ホームページに、このガイドのPDF版と動画版を公開中です。ぜひご覧ください。



考え 差別や偏見を無くすために、メンバーができることは？

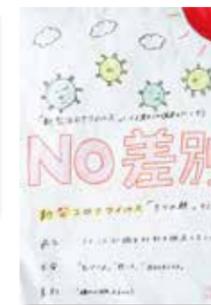
新型コロナウイルスには3つの“感染症”の顔があり、負の連鎖が生まれることに気づいたメンバーから、差別や偏見を無くすために、啓発活動をしたいという意見が上がりました。その方法として、キャッチフレーズを「NO! 差別～本当に悪いのはだれ?～」とし、感染予防を行いながら啓発用のポスターとうちわを作製。校内や近隣の駅で配布することを考えました。

実行する NO! 差別 ～本当に悪いのはだれ?～

メンバーがアイデアを出し合い、協力して作製したポスターを校内に掲示し、全校生徒に向けて、新型コロナウイルスによる差別や偏見を無くそうと訴えました。



↑メンバーが作製したポスター



7月10日、大場駅(伊豆箱根鉄道)にて、ポスターを掲げながら、新型コロナウイルスの3つの感染症を防ぐために、一人ひとりができることとして、①手洗い等で感染を予防すること、②不安にふりまわされないよう「気づく力」「自分を支える力」を高めること、③確かな情報を広め、差別的な言動に同調しないことの大切さを記したうちわを配りながら、地域のみなさまに訴えました。

活動を終えたメンバーは、「本当に悪いのは、不安から感染リスクが高い人に対し、偏見をもつことや差別することです。これが正しく伝わり、新型コロナウイルスのもたらす影響が、少しずつ無くなってほしい」と感想を述べました。



↑感染予防に留意して、大場駅で活動を行うメンバー



↑大場駅で配布したうちわ

コロナ禍の中、私たちにできることは何か? 社会の一員として、みなさまも自分にできることを考え、それぞれの立場で取り組んでいきましょう。

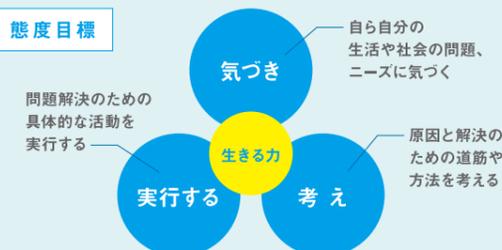
青少年赤十字(JRC)とは?

児童・生徒が赤十字の精神に基づき、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕する心、そして世界の人々と分かり合う姿勢を育むことを目的としています。実践目標を掲げ、主体性を育むために「気づき・考え・実行する」という態度目標を大切に活動しています。

実践目標

健康・安全	生命と健康を大切に
奉仕	人や社会のために
国際理解・親善	世界に目を向けて

態度目標



CROSS TOPICS!



差別や偏見ではなく、 医療従事者に「ありがとう」のエールを！

新型コロナウイルス感染症の最前線で働く医療従事者に、感謝の気持ちを込めて拍手を送る運動「フライデーオベーション」。その駅前中央商店街の有志のみなさまが、「感染リスクと隣り合わせで最前線で働く医療従事者に感謝の気持ちを伝えたい」と、4月17日から6月5日までの毎週金曜日の正午に、感染予防を図りながらこの取り組みを行いました。商店街の近くにある裾野赤十字病院は、第二種感染症指定医療機関として対応にあたっており、みなさまの温かいエールに励まされました。



輸血を待つ患者さんに 「献血」でエールを！

緊急事態宣言発令下では、外出自粛の要請等により、全国的に献血協力が減少しました。そのような中、静岡市にある「献血ルームあおば」には、「献血は不要不急の外出にはあたらぬ。こんな状況だからこそ、普段から行っている献血で、病氣と闘う患者さんの力になりたい」と、献血にご協力いただいた方もいます。みなさまの献血は、日々、輸血を待つ患者さんの大切な命を支えています。



※献血に関する問合せは、
静岡県赤十字血液センターホームページをご覧ください。



PRESENT!

赤十字マーク入り オリジナル「ショルダーポーチ」を30名様にプレゼント!

以下を明記の上、郵送・FAX・メールでご応募ください。

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③年齢 ④赤十字しずおかVol.126へのご意見・ご感想

※回覧でお読みになった方には、本号を郵送します。ご希望の方は①②を明記の上、「Vol.126希望」とお書きください。
なお、プレゼントのご応募と同時に申し込みいただく場合は、①～④を明記の上、応募締切日必着をお願いします。

応募先

郵 送：〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
日本赤十字社静岡県支部 組織振興課
F A X：054-254-5830 メール：koho@shizuoka.jrc.or.jp

応募締切

令和2年11月30日(月)必着
当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



※収集した個人情報につきましては、個人情報保護法及び日本赤十字社の保有する個人情報保護規程に則り取り扱います。



静岡県支部

日本赤十字社

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
TEL 054-252-8131 <http://www.shizuoka.jrc.or.jp>



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。